

- ・論文について、計画研究代表者には二重下線、計画研究分担者には一重下線、公募研究代表者には波線、corresponding author には名前左に*印を付しています。
- ・領域設定期間より前の研究成果など、本研究に直接関連のない成果発表等は除いています。
- ・令和8年5月末までに掲載等が確定しているものに限定しています。

【X00】総括班

■笠井 清登（研究代表者）

雑誌論文（英文）

Narita Z, Knowles G, Yamasaki S, Kasai K, Nishida A: The silent crisis in girls' mental health. Nat Hum Behav 9: 2409-2410, 2025. DOI: <https://doi.org/10.1038/s41562-025-02322-2>
(日本の思春期女性における自殺の増大に警鐘を鳴らした viewpoint)

Tada M, Yagishita S, Uka T, Nishimura R, Kishigami T, Kirihara K, Koshiyama D, Usui K, Fujioka M, Araki T, Kasai K: From the laboratory to the real-world: The role of mismatch negativity in psychosis. Clin EEG & Neurosci, epub ahead of print, 2024.

*Kasai K, Kumagaya S, Takahashi Y, Sawai Y, Uno A, Kumakura Y, Yamagishi M, Kanehara A, Morita K, Tada M, Satomura Y, Okada N, Koike S, Yagishita S: "World-Informed" neuroscience for diversity and inclusion: An organizational change in cognitive sciences. Clin EEG Neurosci 54: 560-566, 2023. DOI: [10.1177/15500594221105755](https://doi.org/10.1177/15500594221105755)

(本領域には、従来の生物医学モデルによる研究を社会モデルにより変革するというコンセプトがあることから、world-informed neuroscience for diversity and inclusion (WINDI)という概念を領域会議での熟議により生み出し、査読付き英文総説として発表したもの)

*Kasai K, Yagishita S, Tanaka SC, Koike S, Murai T, Nishida A, Yamasaki S, Ando S, Kawakami N, Kanehara A, Morita K, Kumakura Y, Takahashi Y, Sawai Y, Uno A, Sakakibara E, Okada N, Okamoto Y, Nochi M, Kumagaya SI, Fukuda M: Personalized values in life as point of interaction with the world: Developmental/neurobehavioral basis and implications for psychiatry. Psychiatry Clin Neurosci Rep 1: e12, 2022. DOI:10.1002/pcn5.12.

(前新学術領域の主体価値概念を社会モデル的に拡張し、個体と世界の相互作用点としての価値が思春期に主体化して世界にコミットする「当事者」となるという本領域のコンセプトに発展させた)

雑誌論文（和文）

笠井清登：「私たちの精神疾患」が教えてくれたこと．こころの元気+ 20: 2-3、2026.

笠井清登：価値精神医学（Values-informed psychiatry）．精神医学 2026年5月号増大号特集「キーワードから読み解く精神医学・精神医療の10の潮流」、2026.

田尻智哉、笠井清登：中学生のメンタルヘルス．精神科治療学 40、2025.

臼井香、切原賢治、笠井清登： mismatch陰性電位と思春期のメンタルヘルス。感性工学 23(2)、2025。特集「音の構成と感性」

公開 URL：https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kansei/23/2/_contents/-char/ja

笠井清登：脳—精神—社会の関係について生物学的精神医学者に求められる 10 の基本視点。日本生物学的精神医学 36: 93、2025。（巻頭言）

笠井清登：統合失調症の理解と支援のこれまでとこれから。精神神経学雑誌 127(12): 849-860、2025。

里村嘉弘、金原明子、笠井清登：医学・医療領域の共同創造に向けた組織変革—東京大学医学のダイバーシティ教育研究センターの設立と取り組み—。精神神経学雑誌 127: 24-31、2025。

笠井清登：「経験専門家」の仲間（ピア）に教えてもらうこと、期待していること。こころの元気+ 19: 28-29、2025。

笠井清登：「大丈夫な社会」って何ですか？。こころの元気+ 19: 10-11、2025。

笠井清登：糖尿病と精神疾患のある人の支援。臨床栄養 145(6): 729-732、2024。

榎本和生、笠井清登：大規模データ・AI が切り拓く脳神経科学 見えてきた行動、感情、記憶の神経基盤と精神・神経疾患の生物学的なサブタイプ 序にかえて大規模データ・AI の発展により変曲点を迎えた脳神経科学研究。実験医学 42(7): 1001-1004、2024。

里村嘉弘、金原明子、大久保紗佳、杉本達哉、片岡朋恵、小西優歌、吉川桜子、木之下遼、末松万宙、高橋優輔、熊倉陽介、長谷川智恵、佐々木理恵、山口創生、澤田宇多子、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎、笠井清登：東京大学医学部におけるダイバーシティ、インクルージョン、コ・プロダクションの学部教育。医学教育 55: 121-127、2024。

笠井清登：22q11.2 欠失症候群。症状性・器質性精神障害診療ガイド 2024 年版。精神科治療学 39 増刊号 pp. 202-203、2024。

金原明子、里村嘉弘、*笠井清登：医学におけるダイバーシティとインクルージョン教育・研究の取り組み。こころの科学 228: 93-97、2023。

（総括班で推進している研究のコ・プロダクションの姿勢を有する若手研究者の育成に関して、医学教育にどのように実装するかについて論じた）

学会発表（国際）

Kasai K: Tojisha-oriented psychiatry in Japan. International Conference on “Decolonizing Mental Health in Asia”: Dec 20, 2022, online.

（当事者化という日本発の概念を国際的に普及させる試み）

学会発表（国内）

笠井清登：脳--精神--社会の関係について生物学的精神医学者に求められる 10 の基本視点、BPCNPNP2025、京都、2025 年 11 月 13 日、教育講演

笠井清登：足立区医師会講演会、統合失調症の理解と支援のアップデート、2025 年 10 月 27 日、講演

笠井清登：周産期メンタルヘルスを見るメガネとしての TICPOC～支援者のエンパワメントに向けて～、第 21 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会、東京、2025 年 9 月 27 日、特別講演

笠井清登：総合病院で働くこころの支援者に求められる素養、教育、支援者支援のあり方について、第 37 回日本総合病院精神医学会総会、熊本、2024 年 11 月 29 日、教育講演

笠井清登：大正大学臨床心理学部開学部記念シンポジウム、臨床心理学における今後の大学教育の在り方、2024 年 9 月 19 日、シンポジスト（話題提供・討論）

里村嘉弘、金原明子、長谷川智恵、佐々木理恵、高橋優輔、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎、宇野晃人、熊倉陽介、柳下祥、笠井清登：ダイバーシティとインクルージョンの医学部学部教育の取り組みと障害のある医学生の実態、第 56 回日本医学教育学会、東京、2024 年 8 月 10 日、シンポジウム

福田正人、山口創生、笠井清登、村井俊哉：研究の共同創造を通じた学会の組織変革：日本統合失調症学会が取り組む社会実験、第 120 回日本精神神経学会、札幌、2024 年 6 月 21 日、一般シンポジウム

里村嘉弘、金原明子、長谷川智恵、佐々木理恵、高橋優輔、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎、宇野晃人、熊倉陽介、柳下祥、笠井清登：医学教育カリキュラムにおけるダイバーシティとインクルージョン教育の導入、第 120 回日本精神神経学会、札幌、2024 年 6 月 21 日、一般シンポジウム

長岡 大樹、笠井 清登：論文作成の経験から：症例報告、第 120 回日本精神神経学会、札幌、2024 年 6 月 20 日、委員会企画シンポジウム「論文作成にあたってのラストオーサーの役割」

宇野 晃人、笠井 清登：論文作成の経験から：資料、第 120 回日本精神神経学会、札幌、2024 年 6 月 20 日、委員会企画シンポジウム「論文作成にあたってのラストオーサーの役割」

笠井清登：統合失調症の理解と支援のこれまでとこれから、第 63 回中国・四国精神神経学会／第 46 回中国・四国精神保健学会、岡山、2023 年 11 月 11 日、特別講演

里村嘉弘、金原明子、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎、佐々木理恵、宇野晃人、熊倉陽介、柳下祥、笠井清登：医療人材の多様性と包摂の推進に向けて—医学のダイバーシティ教育研究センターの取り組み—。第 54 回日本医学教育学会、群馬、2022 年 8 月 6 日。ポスター

里村嘉弘、金原明子、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎、佐々木理恵、宇野晃人、熊倉陽介、柳下祥、笠井清登：医学領域のダイバーシティとインクルージョンに向けて—医学のダイバーシティ教育研究センターの取り組み—。第 119 回日本精神神経学会、横浜、2023 年 6 月 22 日。シンポジウム

笠井清登：大丈夫な社会と予防はどちらが先？。第 25 回日本精神保健・予防学会学術集会、京都、2022 年 11 月 12 日。教育講演

笠井清登：人間の行動を科学するという事。CiSHuB 成果報告会（シンポジウム）、オンライン、2021 年 12 月 3 日。講演

書籍

笠井清登、熊谷晋一郎（編集）：コ・プロダクション実践ガイド 当事者とともに創る研究とは。東京大学出版会、2025.12.

（研究のコ・プロダクションについての教科書であり、領域の総括班活動のまとめとしての位置付けである）

笠井清登：10代から考えるこころの健康 みんなでつくる「だいじょうぶな社会」。大修館書店、2025.8.

笠井清登、柳下祥：統合失調症又は他の一次性精神症群：これまでの概念・疫学・病態とこれからの共同創造・社会医学・理解。In: 日本精神神経学会精神科専門医テキスト、新興医学出版社、pp. 336-348、2025.

笠井清登：統合失調症。In: 研修医のための精神科ハンドブック第 2 版。医学書院、pp. 99-102、2025.

笠井清登：精神科医療におけるインフォームドコンセント。In: 今日の治療指針 2025 pp. 1025-1025、医学書院、2025.

笠井清登、村井俊哉、内田裕之、近藤伸介、大島紀人（編集）：精神科研修ノート 改訂第 3 版。診断と治療社、2024.12.

笠井清登：第 4 講 精神医学と脳科学。In: 東大塾 脳科学と AI。酒井 邦嘉（編）、東京大学出版会、pp. 91-116、2024.11.5.

福田正人、村井俊哉、笠井清登（編集）。別冊「医学のあゆみ」。統合失調症の未来——研究と治療。医歯薬出版、2024.6.

夏莉郁子、笠井清登（監修）：生きづらさをひも解く 私たちの精神疾患。認定 NPO 法人 地域精神保健福祉機構、2023.10.

福田正人、村井俊哉、笠井清登（編集）．医学のあゆみ 286 巻 6 号．統合失調症の未来—研究と治療．医歯薬出版、2023.8.

笠井清登（責任編集）、熊谷晋一郎、宮本有紀、東畑開人、熊倉陽介（編著）：こころの支援と社会モデル、金剛出版、2023.4.

（本領域をつらぬく社会モデルを概説したもので、アマゾンランキング臨床心理学部門で1位を獲得、発売後ただちに重版決定）

笠井清登：心理支援をどうモデル化するか：自分の支援を言葉にして問い続ける．臨床心理学スタンダードテキスト、金剛出版、pp.151-164、2023.

笠井清登：第 12 章 精神科医師から伝えたいこと．In: 心理職を目指す大学院生のための精神科実習ガイド．津川律子、橘玲子（編）、誠信書房、pp170-171、2022.10.22.

笠井さつき、笠井清登（編）：女性のこころの臨床を学ぶ・語る—心理支援職のための「小夜会」連続講義．金剛出版、2022.

笠井清登：「精神疾患の特徴」「精神疾患への対応」「精神疾患をもっても安心して暮らせる社会を目指そう」「思春期における脳と心の発達と自己実現」新高等保健体育．大修館書店、2022.

（文部科学省検定・高等学校保健体育教科書において、精神疾患の記述だけでなく、ダイバーシティとインクルージョンの重要性の特設ページを担当し、障害の社会モデルやアンチステイグマを高校生にわかりやすい表現で紹介）

主催シンポジウム（国際）

東京大学（ホスト）、北京大学、ソウル大学共同主催：9th BESETO International Psychiatry Conference, Tokyo, Japan (online). November 13, 2022.

（B01 計画研究代表者・熊谷晋一郎博士により、特別講演で当事者研究を国際的に紹介）

主催シンポジウム（国内）

笠井清登：進化・感情・人間関係—現代社会環境における「自己」の構築という課題．第 20 回日本統合失調症学会、東京、2026 年 3 月 22 日．シンポジウム主催

武田裕子、笠井清登：医学生・医療系学生のインクルージョンとインクルージョンの医学教育．第 57 回日本医学教育学会、東京、2025 年 7 月 25 日．シンポジウム主催

山口創生、笠井清登：共同創造における言葉の大切さ．第 19 回日本統合失調症学会、高槻、2025 年 4 月 27 日．シンポジウム主催

武田裕子、笠井清登：医学教育における D&I、および医学における D&I 教育．第 56 回日本医学教育学会、東京、2024 年 8 月 10 日．シンポジウム主催

笠井清登、村井俊哉：卒前から卒後へのシームレスな医学教育に精神医学が真に役立ちうるには．第 120 回日本精神神経学会、札幌、2024 年 6 月 21 日．一般シンポジウム主催

(総括班で推進している研究のコ・プロダクションについて、医学教育にどう取り込むかについて議論する)

笠井清登：多様化する精神障害ケアと統合失調症に対する治療・支援. 第18回日本統合失調症学会、徳島、2024年4月13日. シンポジウム主催

研究のコ・プロダクションを通じた学会の組織変革. 第120回日本精神神経学会学術総会シンポジウム. 札幌、2024年6月21日.

(会員数17,000名を超える精神医学の基幹学会において、精神疾患の当事者の方々と学会員で研究のコ・プロダクションに関して対話する画期的なシンポジウム)

市民アウトリーチ・共同創造活動

笠井清登：若者・女性への相談支援～当事者主体の支援を学ぶ～. 東京都立精神保健福祉センター令和8年度精神保健福祉研修(オンライン)、東京、2026年7月29日. 講師

笠井清登：精神疾患の新しい理解と支え～ひとりひとりのウェルビーイングとだいじょうぶな社会をめざして～. 港区立精神障害者支援センターあいは一と・みなと第2回精神保健福祉講座、東京、2025年12月14日. 講演

笠井清登：「私たちの精神疾患」が教えてくれたこと こころの元気+ 20: 2-3、2026.

笠井清登：経験専門家」の仲間(ピア)に教えてもらうこと、期待していること こころの元気+ 19: 28-29、2025.

IRCN 聖光学院、洗足学園：授業. 2025年9月5日.

笠井清登：「大丈夫な社会」って何ですか?. こころの元気+ 19: 10-11、2025.

日本統合失調症学会、認定NPO法人地域精神保健福祉機構(コンボ)、公益社団法人全国精神保健福祉会連合会：研究の共同創造を目指す日本統合失調症学会. 臨床精神医学 53: 1535-1539、2024.

笠井清登：「当事者・家族との共同創造に基づく統合的な支援のかたち. 22q11.2欠失症候群の重複する困難に挑むPPI」. AMED「AMED-PPIインタビュー vol.8」. 当事者・家族との共同創造に基づく統合的な支援のかたち ～22q11.2欠失症候群の重複する困難に挑むPPI～、2024年9月取材. <https://www.amed.go.jp/ppi/ppipractice.html>

笠井清登：思春期から取り組むだいじょうぶな社会. 山武郡市精神障害者家族の会のぞみ会勉強会、千葉県山武郡、2024年9月18日. 講演

笠井清登：第94回こぼ亭. 当事者が精神科医療の常識を変える. 横浜市教育会館、2024年4月27日.

(市民公開講座) 精神疾患の体験を有する当事者が執筆した精神疾患の教科書から精神医学の学者がどのように学べるか、当事者らと対話した。

笠井清登：医療研究開発に求められる患者・市民参画（PPI）及びダイバーシティ&インクルージョン。日本医療研究開発機構（AMED）医療研究開発業務研修、東京、2023年12月18日。

（医療研究費配分機関であるAMEDから招聘され、職員に対してPPIについての研修講師を務めた）

笠井清登：中年期・高齢期のメンタルヘルス。第48回東大医師会公開講座、東京、2023年12月14日。講師

笠井清登：価値に基づく支援者育成 第6回一般公開シンポジウム。東京大学医学部 鉄門記念講堂、2023年11月26日。

笠井清登：統合失調症の現在地と高等学校での精神疾患教育。横浜市精神障害者家族連合会2023年度第2回市民メンタルヘルス講座ーみんなで考えようこころの健康（横浜市受託事業）、横浜、2023年10月28日。講演

読売新聞朝刊14面：サイエンス Report 「MRI50年 脳の解明へ進化」、2023年8月6日。

読売新聞朝刊1面：情報偏食 ゆがむ認知 「「激やせ」検索 壊れた心身」、2023年3月8日。取材協力

笠井清登：だいじょうぶな社会にむけた一歩。リカバリー全国フォーラム2022、オンライン、2022年10月30日。基調講演

ひらめき☆ときめきサイエンス「思春期のこころの発達・健康とダイバーシティ☆体験ツアー」、2022年10月23日。

東京農業大学第三高等学校：こころの健康授業。2022年9月22日、9月29日。

笠井清登：「22q11.2欠失症候群のある人とその家族の心理社会的支援について」埼玉県立小児医療センター22q11.2欠失症候群集団外来、2022年9月16日。家族向け講演

笠井清登：思春期のこころの発達を支える。令和4年度埼玉私学教育研究大会、埼玉、2022年8月22日。教員向け講演

笠井清登：第16回日本統合失調症学会～学会の共同創造に向けた小実験～精神科臨床 Legato 8: 64-65. 2022.

笠井清登：NHK「きょうの健康」ホームページ「NHK健康チャンネル」、2022年8月10日公開

笠井清登：NHKテキスト「きょうの健康」2022年8月号 心の不調。p32-39、2022年8月

笠井清登：統合失調症。NHK Eテレ「きょうの健康」、2022年8月12日、8月13日放送
取材協力 <https://www.nhk.or.jp/shutoken/wr/20220812a.html>

NHK「おはよう日本」：「高校で精神疾患の授業が開始」2022年7月29日放送。取材協力

笠井清登、荒木剛、福田正人：「精神疾患の特徴」「精神疾患への対応」「精神疾患をもっても安心して暮らせる社会を目指そう」「思春期における脳と心の発達と自己実現」新高等保健体育、大修館書店、2022.

笠井清登：だいじょうぶな社会にむけた一歩、リカバリー全国フォーラム 2022、オンライン、2022年10月30日、基調講演

笠井清登：価値に基づく支援者育成 第5回公開シンポジウム、東京大学 伊藤謝恩ホール、2022年11月6日、オンデマンド配信：2022年11月11日～11月25日.

笠井清登：ひらめき☆ときめきサイエンス「思春期のこころの発達・健康とダイバーシティ☆体験ツアー」、東京大学医学部附属病院、2022年10月23日.

(JSPSのプログラムで、本領域の研究成果やダイバーシティ・インクルージョンの概念を小中学生にわかりやすく体験形式で学んでもらった)

日本統合失調症学会 市民公開講座主催、2022年3月21日.

みんなねっと広報誌、全国精神保健福祉会連合会、2022年1月～2022年12月、連載

聖光学院中学校こころの健康授業、聖光学院、2022年2月15日～2月16日.

立教新座中学こころの健康授業、立教新座、2021年11月25日、2022年1月13日.

Tokyo Forum、2021年12月3日.

笠井清登：思春期のこころを支える：広報、聖光学院中学高校、2021.

笠井清登：価値に基づく支援者育成 第4回公開シンポジウム、オンデマンド配信：2021年12月20日～12月28日.

笠井清登：医学のダイバーシティ教育研究センターキックオフシンポジウム、オンデマンド配信：2021年12月20日～12月28日.

笠井清登：“病気を持っても大丈夫”という回復のあり方と社会を目指して、社会福祉法人聴力障害者情報文化センター、オンライン、2021年11月13日、講演

プレスリリース・報道発表

朝日新聞朝刊「ひと」、2026年2月7日

朝日新聞デジタル「精神疾患になってもだいじょうぶな社会を」：精神科医が願う未来、2026年2月7日

<https://digital.asahi.com/articles/ASV2K2JZXV2KTNLL01LM.html?ptoken=01KHT4J9EXA8MK0XYSFSQAVSYK>

日本経済新聞朝刊「こころの不調 経済に霧」、2025年11月30日

読売新聞朝刊 医療ルネサンス no8613 患者・市民参画、2025年10月24日

精神疾患を持つ当事者らが執筆し、笠井が監修者として関わった「私たちの精神疾患」出版に際して、以下の各紙で報道発表が行われた：

毎日新聞：生きづらさの正体に迫る．2024年2月16日

デーリー東北：精神疾患 つらさの正体は．2024年2月4日

佐賀新聞：当事者目線の「教科書」登場．2024年2月7日

茨城新聞：精神疾患、当事者の目線．2024年2月15日

愛媛新聞：精神疾患、体験基に「教科書」．2024年2月16日

山陰中央新報：精神疾患 つらさの正体は．2024年2月19日

山形新聞：「生きづらさ」正体に迫る．2024年2月19日

神戸新聞：精神疾患のつらさ 当事者執筆．2024年2月19日

宮崎日日新聞：精神疾患 生きづらさ正体迫る．2024年2月24日

千葉日報：当事者発の教科書迫る．2024年2月25日

西日本新聞：精神疾患、生きづらさの正体は．2024年2月26日

しんぶん赤旗：精神疾患・新教科書：ズレに気づく画期的な一冊．2023年12月8日

その他（成果のパンフレット、ウェブサイトなど）

学会や研究に参加しやすくなるやさしい用語集 <https://schizophrenia.softr.app>

（精神疾患を研究する学会での学術大会では専門用語が飛び交ったり、頻繁に用いられる言葉の説明がなかったりすることが珍しくありません。一方で、学術大会に参加した当事者の方は、知らない言葉ばかりの空間では萎縮してしまうかもしれません。この解説集は、そのような専門用語について当事者・ご家族にとってわかりやすく解説する目的で作成したものです。今後、当事者から知恵や経験を教えていただき、改良を進めて学会や研究に参加しやすくなるためのやさしい用語集に発展させ、共同創造による精神疾患研究に寄与することを目指しています）

東京大学医学のダイバーシティ教育研究センターWebsite <https://cdmer.jp>

（2021年度に領域代表者により開設されたセンターで、本領域を通じて生み出されたコ・プロダクションについての理論を、実際の医学教育に適用する実践の場となっている）

■綾屋 紗月（研究分担者）

雑誌論文（英文）

Ayaya S: Tōjisha-Kenkyū on Autism in Japan: Against Epistemic Injustices and Tokenism. *Journal of Social Issues* 81: e70026, 2025.

（共同創造の実現に必要な条件を探るため、スティグマに関する集団間接触理論（intergroup contact hypothesis）や「調和の皮肉（irony of harmony）」（異なる集団が接触することで互いへのスティグマが低減する一方で、集団間の権力勾配を温存させている法律や制度といった構造スティグマを是正しようとする動機はむしろ縮小する、いわばガス抜きが生じる現象）などを参照しつつ、アカデミアにおける証言的不正義やスティグマを是正するためには、①個人レベルの平等性の実現（多数派も少数派も自らの当事者研究を行い、発表しあうことで、人間同士としての互いの経験を共有する）と、②集団レベルの平等性の実現（法、制度、物質的環境が多数派向けに出来ていることを確認し、より包摂的なものに改変すること）の両方が必要であると提案した。）

Pukki H, Bettin J, Outlaw A G, Hennessy J, Brook K, Dekker M, Doherty M, Shaw S C K, Bervoets J, Rudolph S, Corneloup T, Derwent K, Lee O, Rojas Y G, Lawson W, Gutierrez M V, Petek K, Tsiakkirou M, Suoninen A, Minchin J, Döhle R, Lipinski S, Natri H, Reardon E, Estrada G V, Platon O, Chown N, Ayaya S, Milton D, Walker N, Roldan O, Herrán B, Cañedo C L, McCowan S, Johnson M, Turner E J, Lammers J, Yoon W H: Autistic perspectives on the future of clinical autism research. *Autism in Adulthood* 4: 93-101, 2022. DOI: [10.1089/aut.2022.0017](https://doi.org/10.1089/aut.2022.0017)

(北米、南米、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、オセアニアの各地にいる自閉症者主導組織の代表者および医学・ソーシャルワーク・教育・心理学など自閉症関連の専門的・学術的知識を持つ自閉症者 46 名からなる Global Autistic Task Force on Autism Research のメンバーのうち 38 名が執筆者となり、自閉症の臨床研究と世界的なサービスシステムの開発の方向性を定めることを目的とした「自閉症のケアと臨床研究の将来についてのランセット委員会の勧告」に対して、当事者の視点から問題点を指摘した国際共著論文。)

雑誌論文（和文）

*綾屋紗月：違いを越えてつながるために．社会福祉法人いのちの電話、東京、173: 2-3、2025.

綾屋紗月：自閉スペクトラム当事者からみた診断：科学と正義論が交わる場所．そだちの科学、42: 75-77、2024.

Ayaya S, Kitanaka J: Tōjisha-kenkyū: Japan's radical alternative to psychiatric diagnosis. *Aeon*, 2023. <https://aeon.co/essays/japans-radical-alternative-to-psychiatric-diagnosis>.

*綾屋紗月：共同創造に向けた精神医療・精神医学のパラダイムシフト．精神医学、65: 155-161、2023.

*綾屋紗月：自分と出逢い、社会とつながる：ニーズを明確化し社会変革に至るまでのプロセス．総合リハビリテーション、51: 25-31、2023.

*綾屋紗月：当事者が拓く「知」の姿：ある自閉スペクトラム者の観点から．認知科学、29(2): 312-321、2022.

*綾屋紗月：診断の限界を乗り越えるために：ある自閉スペクトラム当事者の経験から．臨床心理学、22(1): 55-59、2022.

*綾屋紗月：当事者の視点による共同創造と当事者研究の歴史．科学史研究、60(300): 372-375、2022.

学会発表（国内）

熊谷晋一郎、Paul French、綾屋紗月：シンポジウム「当事者主体の研究は、何を変えようとし、何を変えてきたか」．第 20 回日本統合失調症学会、2026 年 3 月 21 日～22 日．

綾屋紗月：各大学・地域におけるダイバーシティの取り組み. 第31回日本医学会総会、東京、2023年4月22日.

書籍

綾屋紗月、菊野弘次郎、喜多ことこ、廣川麻子、牧野麻奈絵、唯なおみ、熊谷晋一郎：ユーザー・リサーチャー制度導入の試みと課題. 笠井清登、熊谷晋一郎(編)「コ・プロダクション実践ガイド:当事者とともに創る研究とは」. 東京大学出版会、pp.11-28、2025年12月.

喜多ことこ、廣川麻子、牧野麻奈絵、唯なおみ、綾屋紗月：ユーザー・リサーチャーの研究紹介. 笠井清登、熊谷晋一郎(編)「コ・プロダクション実践ガイド:当事者とともに創る研究とは」. 東京大学出版会、pp.147-174、2025年12月.

熊谷晋一郎、田中伸明、尾上浩二、崔榮繁、白石誠一郎、佐藤聡、笠井清登、田中沙織、西田淳志、柳下祥、綾屋紗月：当事者コミュニティと研究者コミュニティの共同による学術変革と社会変革. 笠井清登、熊谷晋一郎(編)「コ・プロダクション実践ガイド:当事者とともに創る研究とは」. 東京大学出版会、pp.289-314、2025年12月.

綾屋紗月：自閉スペクトラム者の経験：当事者研究と共同創造. 障害学研究 20 障害学の展開——理論・経験・政治、明石書店、pp.200-215、2024年3月.

綾屋紗月：当事者研究の誕生. 東京大学出版会、2023年7月.

市民アウトリーチ・共同創造活動

綾屋紗月、喜多ことこ：メディア表現への気付き：発達障害. 一般社団法人マスコミ倫理懇談会月例会、日比谷プレスセンタービル 8F 新聞協会大会議室、2024年1月29日.

綾屋紗月：DE&I経営の時代：障がいのある社員当事者が真に活躍するために、企業に期待される行動変革とは. 一般社団法人企業アクセシビリティ・コンソーシアムフォーラム、online、2023年12月6日.

綾屋紗月：自己理解からセルフアドボカシーを考える～解釈的不正義・当事者研究・ニューロダイバーシティ運動. 一般社団法人日本発達障害ネットワーク第19回年次大会、online 2023年12月3日.

綾屋紗月：自閉症者の視点から CRPD と総括所見に期待すること. 日本障害フォーラム(編) 障害者権利条約総括所見のポイント解説. やどかり印刷、p.37、2023.

プレスリリース・報道発表

綾屋紗月：当事者が研究者. NHK-BS、2023年5月7日

(2018年から試行的に導入されたユーザー・リサーチャー制度のもと、熊谷研究室で雇用された4名のユーザーリサーチャーの活躍を紹介した番組。初回2023年5月7日放送後、

2023年5月11日、2023年5月16日、2024年6月5日の3回にわたり再放送されている。)

■金原 明子（研究分担者）

雑誌論文（和文）

金原明子：学会や研究への障害当事者参加の現状とその意義や課題について考える 学術・学会活動における共同創造の試みと課題(会議録). 精神障害とリハビリテーション 29(1): 34-36, 2025.

里村嘉弘、金原明子、*笠井清登：医学・医療領域の共同創造に向けた組織変革—東京大学医学のダイバーシティ教育研究センターの設立と取り組み—. 精神神経学雑誌 127 (1) : 24-31, 2025.

里村嘉弘、金原明子、大久保紗佳、杉本達哉、片岡朋恵、小西優歌、吉川桜子、木之下遼、末松万宙、高橋優輔、熊倉陽介、長谷川智恵、佐々木理恵、山口創生、澤田宇多子、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎、*笠井清登：医学部におけるダイバーシティ推進「東京大学医学部におけるダイバーシティ、インクルージョン、コ・プロダクションの学部教育」. 医学教育 55 (2) : 121-127, 2024.

学会発表（国内）

金原明子：学会や研究への障害当事者参加の現状とその意義や課題について考える. 第31回日本精神障害者リハビリテーション学会、東京お台場、2024年12月15日.

佐々木理恵、金原明子、里村嘉弘、川村有紀、西村聡彦、五十嵐愛、宮本有紀、山口創生、熊谷晋一郎、笠井清登：東京大学における精神保健領域ピアサポートワーカー研修の実践報告. 第31回日本精神障害者リハビリテーション学会、東京お台場、2024年12月.

里村嘉弘、金原明子、長谷川智恵、佐々木理恵、高橋優輔、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎、宇野晃人、熊倉陽介、柳下祥、笠井清登：医学教育カリキュラムにおけるダイバーシティとインクルージョン教育の導入. 第121回日本精神神経学会学術総会、札幌、2024年6月21日.

里村嘉弘、金原明子、長谷川智恵、佐々木理恵、高橋優輔、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎、宇野晃人、熊倉陽介、柳下祥、笠井清登：ダイバーシティとインクルージョンの医学部学部教育の取り組みと障害のある医学生の実態. 日本医学教育学会、旭川、2024年8月10日.

金原明子、佐々木理恵、里村嘉弘、高橋優輔、熊倉陽介、長谷川智恵、森田健太郎、宮本有紀、熊谷晋一郎、笠井清登：医療人材育成におけるコ・プロダクション. 第19回日本統合失調症学会、オンライン、2024年4月14日.

里村嘉弘、金原明子、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎、佐々木理恵、宇野晃人、熊倉陽介、柳下祥、笠井清登：医学領域のダイバーシティとインクルージョンに向けて—医学のダ

イバーシティ教育研究センターの取り組みー。第 119 回日本精神神経学会学術総会、横浜、2023 年 6 月 22 日。

書籍

金原明子：コ・プロダクション実践ガイド 当事者とともに創る研究とは. III 医学・医療系と組む実践報告 7 日本統合失調症学会における試み. 2025.

宮本有紀・金原明子・熊倉陽介：TICPOC スタッフのかえりみち. 笠井清登 責任編集ほか 『こころの支援と社会モデル：トラウマインフォームドケア・組織変革・共同創造』金剛出版、2023.

主催シンポジウム（国内）

こころの臨床の「こころ」と営み 第 8 回 TICPOC 一般公開シンポジウム、2025 年 12 月 7 日。

TICPOC 実践フェーズにおける理論と現場の課題～トラウマインフォームドケア・共同創造・組織変革のこれから 第 7 回 TICPOC 一般公開シンポジウム、2024 年 11 月 17 日。

ケアする人について考える 第 6 回 TICPOC 一般公開シンポジウム、2023 年 11 月 26 日。

その他（成果のパンフレット、ウェブサイトなど）

「学会や研究に参加しやすくなるやさしい用語集」 <https://schizophrenia.softr.app/>
（当事者・ご家族を含む市民、医療・福祉の関係者、研究者との対話や研究の共同創造を目指して作成した Web サイト）